



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

プリズム（個の輝き・協同の輝き） 第6号

～幸せな学校の創造～

江東区立南砂中学校だより



校長 近藤 啓太

人間の知恵をもってすれば暴力を手放せる

人は争いをくり返し、ときに力で人の上に立とうとし、傷つけ合ってきました。そうした行動は、古代からの人間の生活や自然界で動物として生き延びるために身についた習性によるものと言われています。また、人間の本質にある「弱さ」や「恐れ」と無関係ではないとも言われています。

いじめもまた、その一部なのかもしれません。自分を守るために他人を傷つける。仲間であるために、誰かを外す。

DV（夫婦や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振られる暴力）や虐待なども、「自分の思いどおりにしたい」「相手より強くなりたい」という気持ちが根っこにあることが多いのです。でもその奥には、こんな気持ちも隠れています。

「自分が否定されるのがこわい」「一人になるのが不安」「愛されていないと感じる」

その恐れは、自分より力の弱いものに暴力として向かうことがあります。人を傷つける行動の中には、自分の心の弱さやさみしさが隠れていることもあるのです。

それでも人間は、「人を傷つけないためにはどうしたらいいか」を考えてきました。そうして生まれたのが、「人権」という考え方です。どんな人にも、守られるべき大切な存在としての価値がある。強い人も弱い人も、男の子も女の子も、どんな考えの人も、どんな生まれの人も、どこの国の人も、「大切にされるべき」だと認める考えです。

いじめをしてしまう可能性は、誰もが持っています。でも、それに流されず、「どうあるべきか」を考え、行動を選ぶこともできます。その力もまた、人間に与えられたものです。

だからこそ、いじめないと決めてくれているあなた 力で支配しないと決めてくれているあなた その姿勢が、これからの社会を少しずつ変えていきます。

もし、つらい思いをしている人がいたら、自分がそうなりそうで不安なときがあったら、どうかひとりで抱えず、大人に相談してください。先生も、地域の人も、あなたの味方です。

「誰もが大切にされて生きていける社会」は、夢ではありません。あなたの選択が、その一歩です。

子どもとカエル （イソップ童話から）

ある日のこと、子どもたちが、池のそばで遊んでいました。そのうちおもしろ半分、池の中へ石をポンポン投げはじめました。

ところが、池の中には、たくさんのカエルが住んでいました。そして、子どもたちの投げた石に当たって、大勢のカエルがひどいケガをしました。

とうとう我慢できなくなって、カエルの中で一番としをとっていたカエルが、池から出て、子どもたちに、「池に石を投げないでください。」と言いました。

すると子どもたちは、「ぼくたちは、何も悪いことをしていないよ。」「ただ、石を投げて遊んでいるだけだよ。」と、答えました。

しかし、としよりのカエルは、「それは分かっています。でも、石を投げないでください。あなたたちには遊びでも、私たちにとっては『命』の問題なのです。石が当たって、死ぬかもしれないのです。」と言いました。

すると、子どもたちはもう言い返す言葉もなく、石を投げるのをやめて、コソコソとどこかへ行ってしまいました。

お薦め本

「普通の子」朝比奈あすか 著 KADOKAWA

働きながら小4の息子を育てる美保。ある日息子が小学校のベランダから飛び降りる。いじめによる被害であると学校を追究するが、次第に息子の違う面が見えてくる。また、美帆自身の小学校時代のいじめの経験もからむ。加害者と被害者の意識のズレが恐ろしく、結末が衝撃的！

N先生 ありがとうございました

このたび、特別支援教室の巡回指導教員としてT先生の育児休業に伴い3か月間ご勤務いただいたN先生が、ご任期を終えられました。N先生には、つばさ教室の生徒たち一人ひとりの状況に丁寧に向き合っていたいただき、温かく、的確なご指導をいただきました。また、私たち教員にとっても、多くの学びと気づきを与えてくださいました。7月からは、旭川にある重症心身障害児（者）施設でお仕事をされます。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

学校が（家庭・地域も）安全・安心な場であるために

本校では、お子様が心と体を大切に守り、充実した学校生活を送ることができるように努めており、悩みや不安がある際は、いつでも学校に相談することができます。しかし、周囲の大人に相談しにくい、直接話すことができないなどあった場合は、一人で抱え込まずに、別途配布します「相談シート」（学校HPからもダウンロード可）を活用し、相談することができます。

ご家庭におかれましては、学校生活における出来事について話し合う機会をもってください。お子様が「痛いな」「恐いな」「おかしいな」「モヤモヤするな」「イヤだな」と感じる事があれば、学校に御相談いただくか、相談シートや各種相談窓口を御利用ください。相談シートは、性暴力等だけでなく、体罰等に関する相談も記載することができるようになっております。



アクションシート 今年度も募集

「ごみを減らす」など4テーマ



「読売SDGs新聞」を読みながら意見を交わす南砂中学校の生徒たち

「くらしにSDGs」プロジェクトを展開する読売新聞社は、2025年度も全国小中高校の児童・生徒からSDGsのアクション（活動）シートを募集します。プロジェクトに賛同する全国のチャレンジ校を中心に応募を呼び掛け、24年度は755校のシートが寄せられました。東京都江東区立南砂中学校では毎年、1年生が夏休みの宿題としてシートに取り組んでいます。秋にはグループ学習をして活動の成果を文化祭で発表しています。



QRコードでダウンロードできます。

迎を歩き、ホッとして多ハ場所を調べました。「昔ながら公園のベンチにペットボトルなどが捨てられていて、普段から定期的に清掃し、ごみを捨てさせない環境づくりが大切だ」と訴えます。中橋陽歌さんは小学生の時、友人関係に悩んだ経験から「公正・公平・平等な社会をテーマに選びました。中学入学後、先輩たちの優しい声掛けが、明るい学校のイメージを作り出していると感じました。心ない言葉めいじりはクラスの雰囲気を悪くする」と実感し、相手の気持ちに寄り添う言葉遣いを心掛けています。25年度に募集するアクションシートのテーマは①平和な社会を大現するために②ごみを減らす③気候変動に対応する取り組み④誰もが差をらしないまちづくりです。チャレンジ校には7月上旬、取り組みのヒントとなる「読売SDGs新聞」の要旨を無償で配布します。



生徒を教職員等による性暴力から守るための第三者相談窓口（保護者も相談できます）

読売新聞に掲載

7月2日（水）の朝刊15面に本校2年生4名の写真が載りました。（左からKさん、Kさん、Nさん、Mさん）

昨年度の1年生が取り組んだ「SDGs7アクションシート」についてインタビューもされました。

本校は、SDGsチャレンジ校に登録しています。「SDGs新聞」にはMさんのレポートが掲載されます。

今年の1年生にも取り組んでもらいます。

SDGsを意識したキャリア教育 (株) ケシオンさんとの連携

SDGラジオを活用した出前授業（2、3年生は3回目、1年生は2回目）を実施しました。区内中学校（進路指導部）の先生方が参観されました。例えば、「ジェンダーにとらわれない仕事」を挙げている生徒が何人もいて、生徒の中に芽生えている確かなものを感じました。

参加された先生の感想をほんの一部ですが掲載します

- ・ただ漠然とこの職業に就きたいだけでなく、その職業でどんな問題を解決したいかを考えていることがとても良かった。
- ・「なりたくないものがない」という生徒が1人もいなかったことが印象的でした。
- ・生徒が堂々と自分の夢を発表出来ていて、その内容に感動しました
- ・校内いたる所にSDGsの掲示物があり、普段からの取組で授業が成立している。
- ・個人の学びと全体での学びを組み合わせ、自分の意見を深められていた。

